

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	石川 律 (いしかわ りつ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	大学院人間科学研究科博士後期課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本健康心理学会第 37 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	石川 律・成田めぐみ・嶋田 洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	中学生における脱フュージョンの手続きを加えた ストレスマネジメント教育の効果の検討
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>児童生徒に対するストレスマネジメント教育 (Stress Management Education ; 以下 SME とする) はストレス反応の低減や予防に有効であることが示されている。しかしながら、その効果は個人差の影響を大きく受けることが示されており、個人差を考慮して SME を行う必要性が指摘されている。</p> <p>本研究においては、SME の効果に影響を及ぼす要因として、般化されたプライアンスと認知的フュージョンを検討した。SME の文脈においては、般化されたプライアンスの程度が高い者は、言語的制御によってストレスに対する対処方略を十分に遂行できない可能性が考えられる。さらに、般化されたプライアンスは認知的フュージョンによって惹起されることが指摘されており、これらの要因を変容させることによって、SME のストレス反応の低減に及ぼす影響性を高めることができると考えられる。</p> <p>そこで本研究においては中学生に対して認知的フュージョンを弱める手続きを加えた SME を実施し、般化されたプライアンスや認知的フュージョンの程度の低減に及ぼす影響を実証的に検討することを目的とした。</p> <p>本研究の結果から、認知的フュージョンを弱める手続きによって、般化されたプライアンスの程度は変容しなかった一方で、認知的フュージョンが高い者においては標準的な SME の手続きのみを行うことによって、ストレス反応が低減することが示された。</p>	

※無断転載禁止